

教育長の視点

～その先にあるもの～

ダイジェスト

全国の教育長に教育施策の立案の視点について尋ねるコーナー「教育長の視点～その先にあるもの～」を、教育情報総合サイトVIEWnext ONLINEで連載しているが、ここでは、青森県青森市、福島県いわき市、静岡県浜松市の教育長へのインタビューのダイジェストを紹介する。

Web VIEWnext ONLINE

各教育長の記事の全編は、ウェブサイトでご覧いただけます。それぞれの2次元コードからアクセスしてください。

青森県
青森市
教育委員会

子どもも保護者も、誰一人取り残さない教育に向けて

～多様な学びと居場所づくり、自己肯定感の伸長でウェルビーイングを確保～



くどうひろし
工藤裕司 教育長

不登校児童生徒への支援に力を入れる青森市。2024年度には、横ばいだった不登校児童生徒数が減少に転じ、不登校児童生徒の復帰率も7割を超えた。2022年度から「個別プログラム」を開始し、不登校児童生徒に対して、遠隔授業など、多様な学び方を提供してきたことが、着実に成果につながっている。「自己肯定感が醸成できるよう、子どもの特性に合わせて活躍できる場を、学校が設けることを重視している」と工藤教育長は語る。

教育長のさらなる視点はウェブ記事をご覧ください→



聞き手



小中学校事業本部
義務教育支援1課
(東日本) 課長
たなか ゆう
田中 雄

福島県
いわき市
教育委員会

地域に根差した、教育委員会による持続可能な支援の仕組みづくり

～子どもたちの成長につながる授業を実現するために～



はっとりじゅり
服部樹理 教育長

いわき市が重視する教育施策の1つが「学力向上」だ。文部科学省「全国学力・学習状況調査」で好成绩の自治体を分析し、授業中に子どもが自分で考え、取り組む機会をつくるのが学力と相関する点に着目した。一方的な授業の改善に向け、「日々の授業を子どもがどう受け止めるか」を大切に、各学校への指導訪問の形を変革。同市は、人口に対して学校数が多く、規模も多様なため、服部教育長は現場に足を運んで話を聞き、地域に根差した支援を進めている。

教育長のさらなる視点はウェブ記事をご覧ください→



聞き手



小中学校事業本部
教育DX推進課 課長
おかべ ゆう
岡部 優

静岡県
浜松市
教育委員会

子ども、教員、管理職、それぞれの立場に寄り添い、強みを引き出す

～多様な立場での経験を生かした改革を目指して～



のあきあいみ
野秋愛美 教育長

「こどもの自分らしさを受け止める教職員」の育成を目指す浜松市。それは野秋教育長が教員時代、「教室の中で一番弱い立場の子は誰だろう」と考えて教育活動をしてきた経験が基になっている。工業が盛んな地域であるため、外国にルーツを持つ子どもが多く、その支援体制の充実に向けて、日本語指導担当教員や巡回指導教員の配置の強化などに力を入れている。野秋教育長は「現場の教員がやりがいを持って子どもたちと向き合える環境を整えたい」と語る。

教育長のさらなる視点はウェブ記事をご覧ください→



VIEWnext ONLINE で記事の全編をぜひご覧ください